

生涯学習

交流学習センターの検討を開始

旧町村の生涯学習施設建設計画、既存の学習施設などの計画・運営を全市的な観点から見直します。



望月映洲教育長から委嘱状が手渡される

されました。委員は、旧町村の建設検討委員や公募による市民など20人で構成。今後、毎月2回のペースで8月まで開催し、市に交流学習センターの建設構想を提言する予定です。

この日の会議は、市内3地域で計画されてきた生涯学習施設の建設計画に対する市の整備方針や各検討委員会で検討されてきた経緯などの説明が行われました。

また、同委員会の会長、副会長の選出も行われ、会長に明科地域青少年健全育成連絡協議会長の益子光磨さんを、副会長に旧豊科町立図書館建設検討委員会委員の草深博視さんを選任しました。

委員からは、「各地域の住民の長年の強い要望の中で検討してきたものである」「各地域の特長を生かした施設にするべき」「建設後の維持管理費もかかることも考慮して、既存の施設の有効活用も含めて検討すべき」などの意見が出されました。



中央の棟の2階部分が増築された（穂高西小）

しゅん工 市内3小・中学校の 校舎改築・耐震工事が終了

児童・生徒が
安心して学び・遊ぶ環境の充実を図りました。

穂高西小学校の校舎増築工事が2月15日、終了し、完成式が望月映洲教育長をはじめ、同校児童が参加して行われました。

同校は昭和63年に計17学級で開校しましたが、西穂高地区の人口増のため普通教室が不足していました。増築したのは校舎西側の2階の普通教室で、鉄筋コンクリート造、延べ床面積324平方メートル。総事業費は8,536万円です。

また、穂高南小学校と三郷中学校では、それぞれ耐震補強工事が終了しました。2月20日にしゅん工した穂高南小の事業費は、1億5,435万円です。三郷中学校は2月28日、市職員や学校関係などが工事箇所や新たに増築された教室などを視察しました。同校の事業費は、耐震補強7,575万円、大規模改造工事3億1,812万円、職員室がある管理棟の増築工事が4,289万円です。



環境についての議論が始まる

環境

安曇野の自然環境を守り育てる

安曇野の財産である豊かな自然を守り、育てるための指針や方法、長期的な計画を検討します。

市の総合的な環境政策の指針となる環境基本条例や環境基本計画また環境保全施策などについて審議する安曇野市環境審議会の初会

合が2月28日、穂高総合支所で開かれました。

同審議会は、環境に関して詳しい市民や研究者、関係行政機関など18人で構成されています。この日は、平林伊三郎市長から委員に委嘱状が手渡されたほか、会長に旧豊科町環境審議会会長の降旗和夫さん、副会長に旧三郷村の山田文明さんを選任、条例や基本計画策定に向けた市の考え方などの説明を行いました。

市長は「この審議会の議論は、市の政策と深く関わってきます。安曇野の財産である豊かな自然環境を守り、育てる方法を検討していた、いただきたい」とあいさつしました。

市では、条例の見直しや穂高、豊科、堀金地域で策定していた環境基本計画の統一を全市的な観点で行うほか、未策定だった三郷、明科地域については、環境データの収集を行い、計画に反映させ、19年度中の策定を目指します。



お互いの役割などを定めた協定書に署名

農業 家族経営協定調印式

安曇野市になって初めての
家族経営協定の調印式が行われました。

第1回安曇野市家族経営協定調印式（農業委員会・県松本農業改良普及センター主催）が2月23日、豊科のビレッジ安曇野で開催されました。

この協定は、農業経営の近代化を促進し、魅力あるものにするために、農業に携わる家族が、一人ひとりの地位や役割を明確にし、個人として尊重され、経営のパートナーとして農業の経営管理に取り組むことを目指したものです。この協定には、現在、市全体で102組が参加しています。

この日は、新たに3家族がそれぞれ話し合っただけで決めた協定書に署名しました。また、18組の家族が協定内容の見直しと期間の更新を行いました。新規協定家族を代表して穂高有明の三澤三夫さんは「それぞれの農家の中身がしっかりすることが大事だと思います。この協定を10年、20年継続していきたいです」とあいさつしました。